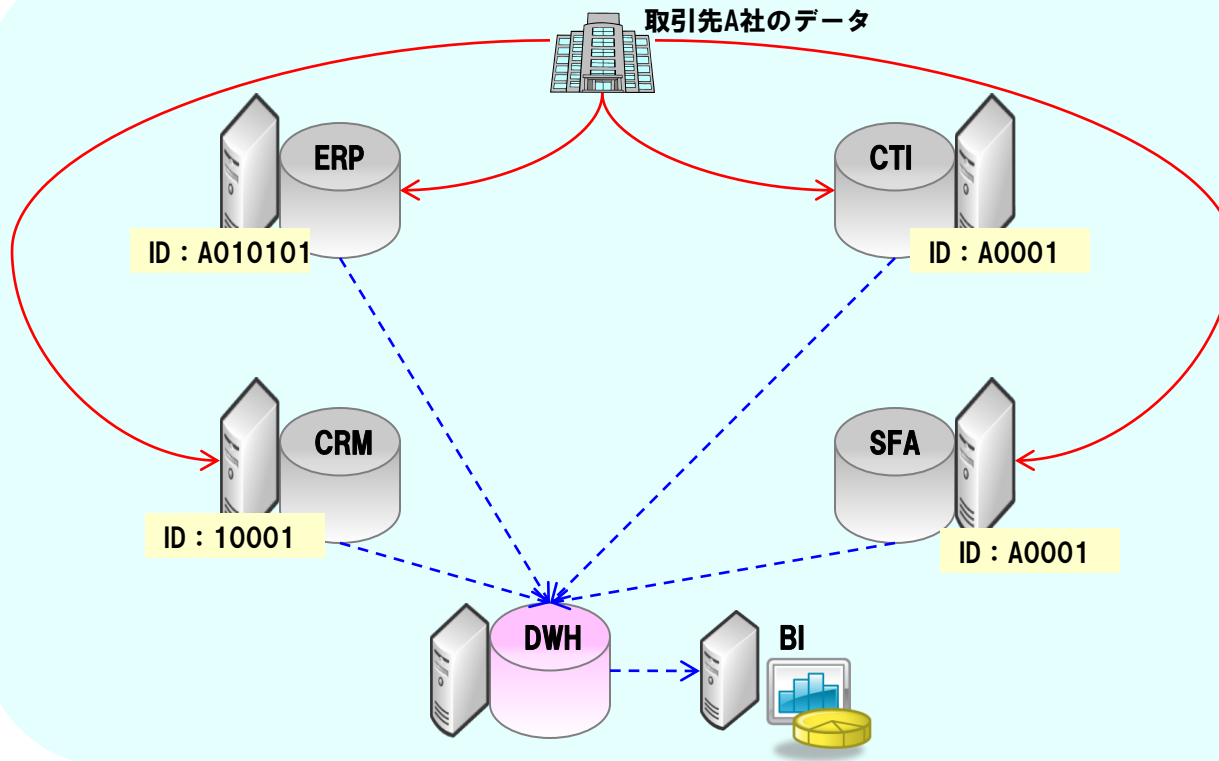


MDM（マスタデータ管理）製品のご紹介



TDCソフトウェアエンジニアリング株式会社

- 例えば、ERPやCRM、SFAといった、異なるシステムやアプリケーションを導入した結果、組織情報や顧客情報などのマスタデータが複数存在していませんか？



DWHで顧客分析をしようとしても、マスタデータの顧客IDの体系が統一されておらず、正しい分析ができない。

取引先1社のデータの入力にも関わらず、マスタデータがバラバラの為、それぞれのシステムに入力しなければならない。

【代表的なマスタの例】

- 人に関するマスタ(組織、社員、顧客、仕入先など)
- 場所に関するマスタ(営業拠点、地域など)
- 物に関するマスタ(商品、製品、部品、部品構成表など)
- 日時に関するマスタ(営業日カレンダーなど)
- その他(契約、単価、通貨、勘定科目など) ※受注や請求などはトランザクションデータ



こんなことはありませんか？

- **複数のマスターデータに同じデータを入力していませんか？**

例) 同じ従業員のデータを、それぞれ経理システムのマスタ、人事システムのマスタに入力、など

- **データを集計・統合する際に、システムごとにコード体系が異なっていて困ったことはありませんか？**

例) 人が判断するしかなく手作業で補正している、など

- **1つのマスターデータに重複したレコードが存在しませんか？**

例) 取引先マスタなどで、株式会社TDCソフト、(株)TDCソフト、TDCソフト、など

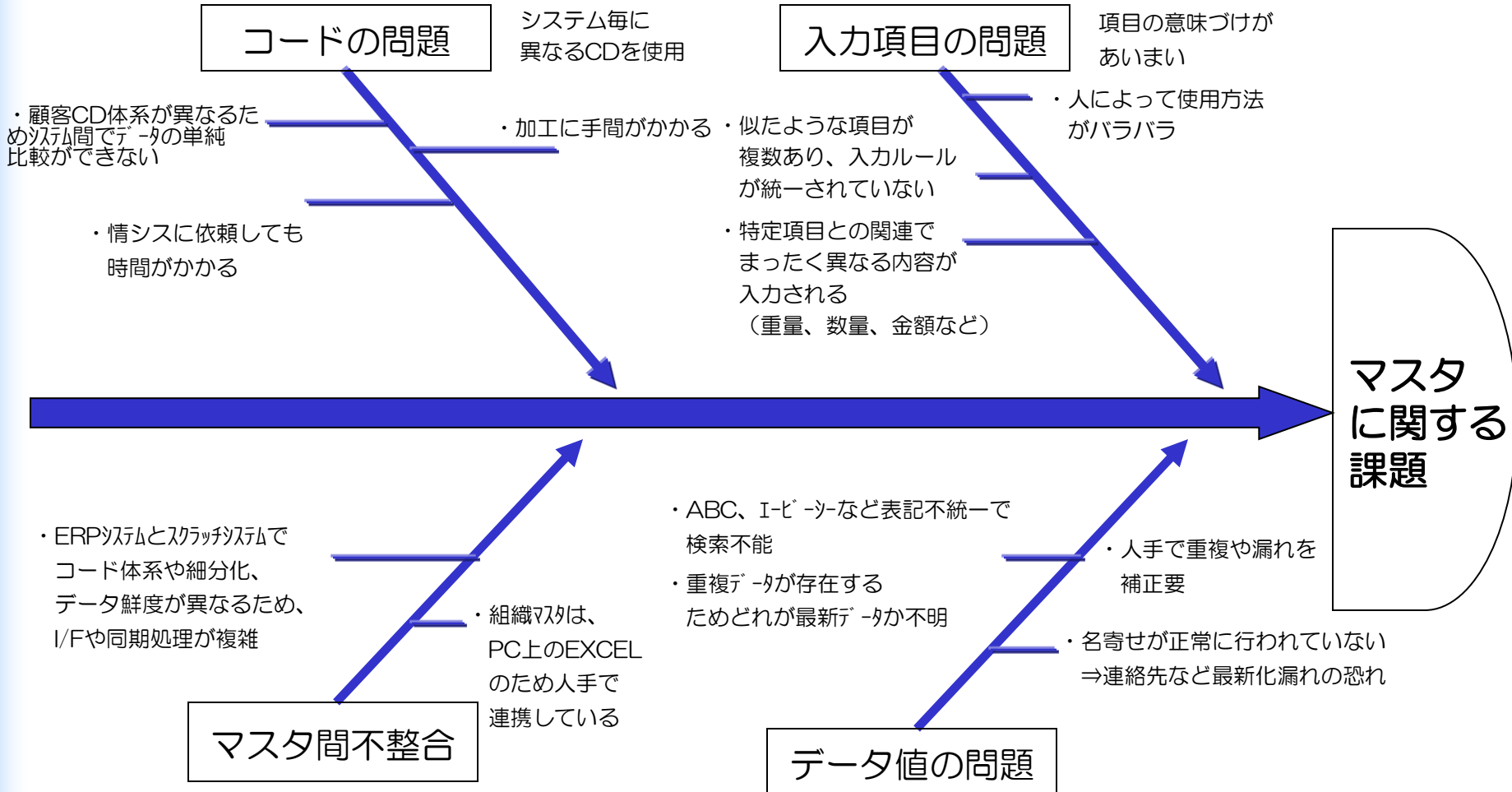
- **属人化しているマスタはありませんか？**

例) 担当者がExcelなどで管理しているマスターデータ、など

- **マスターデータの運用管理に負荷がかかっていませんか？**

例) 内部統制や監査対応、など

1. マスタに関する様々な課題



2. マスターデータ管理とは

● マスタデータ管理とは？

⇒ **Master Data Management**

情報システムで使用されている各種マスタを
統合的に管理するための管理手法および
ソフトウェアの総称

● マスタデータ管理の本質

⇒ **A Single Version of Truth**

企業システムにおいてマスターデータは
単一のバージョンで管理されるべき

- MDMは社内システムの地盤整備であり各業務システムに本来のパフォーマンスを発揮・向上させるため第一歩である
- ワンショットで行うのではなく継続的に行う必要がある

3. 段階的な仮想統合のご提案

現状

近い将来

ToBe

Phase1

現行システムに影響
を与えずに、可能な
マスターから仮想的
に統合を行い、段階
的にマスター統合を
実施

Phase2

直近でシステム更改
予定のあるシステム
で使用しているマス
タを中心に
統合マスターとして
システム外に配置

Phase3

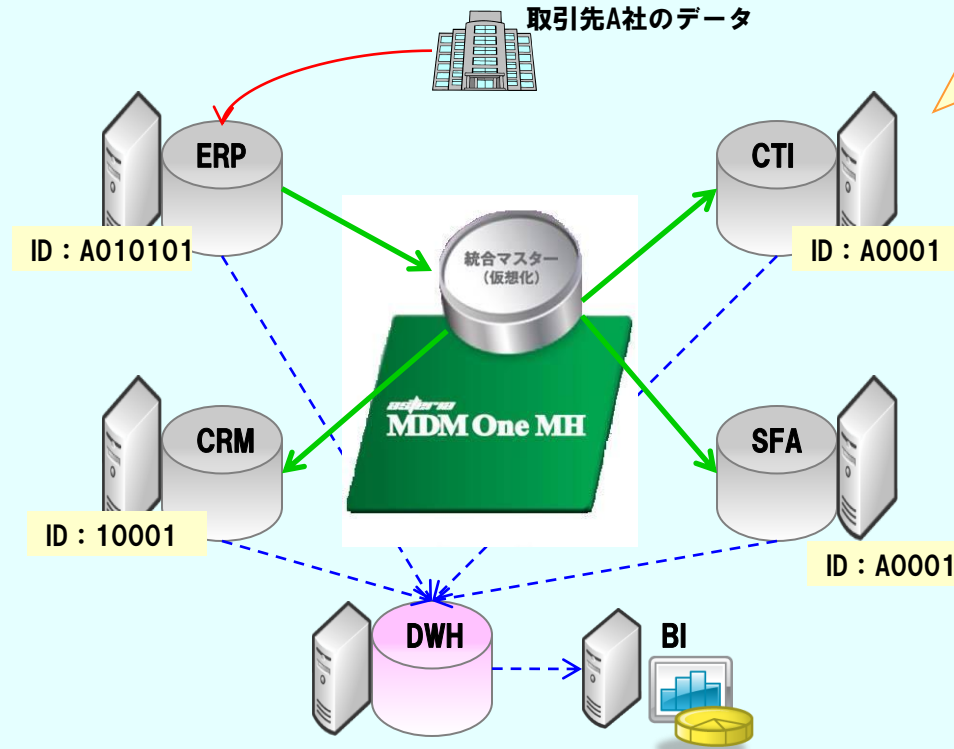
すべてのマスタを業
務システムから切り
離し、統合マスタと
して管理

仮想的なマスタ統合

一部統合マスタ化

完全統合マスタ化

- 可能なマスターから統合を行い、段階的にマスター統合を実施
⇒ 一見、遠回りに見えるが、結果的には近道となる



- ターゲットを絞り効果を計りながら対応が可能
- 予算・スケジュールに合わせた対応が可能
- 部分的にマスター連携を実施していく中で自然に統合マスターが実現

- MDM One MH** 企業システムにおけるマスターデータを仮想的に統合するハブ
- MDM One MI** マスターデータのライフサイクルを一括管理するインターフェース
- MDM One DQ** マスターデータの品質を高めるデータクレンジング・名寄せサービス
- MDM One GT** MDM方法論を提供し、MDM導入をスムーズに支援するサービス



各システムの柔軟性を保ちながら
自律型の統合マスターの構築が可能